

教育等の振興に関する施策の大綱 基本目標の状況

(H29.2 月時点)

「知」の目標の状況	1
「徳」の目標の状況	3
「体」の目標の状況	5

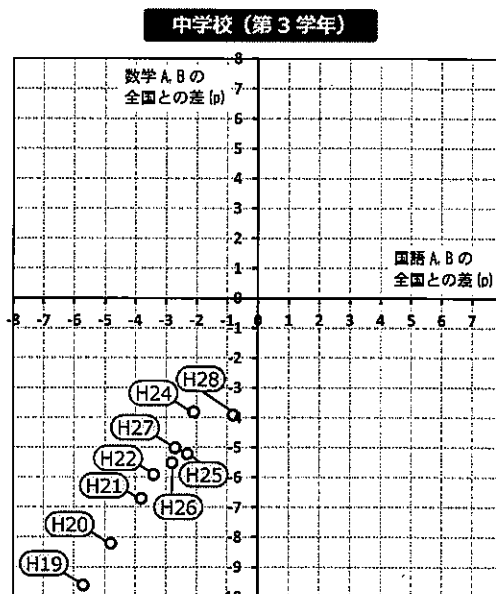
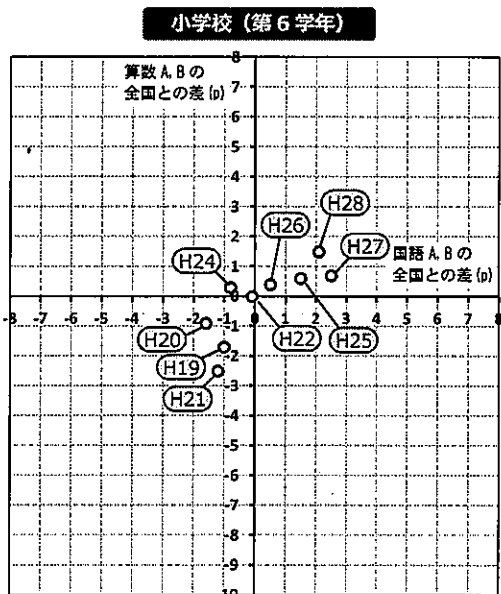
掲載したデータは、平成 29 年 2 月末時点での最新データです。また、全国学力・学習状況調査及び全国体力・運動能力、運動状況等調査結果については、東日本大震災の影響により全国的な調査が行われなかった平成 23 年度の結果は除いています。



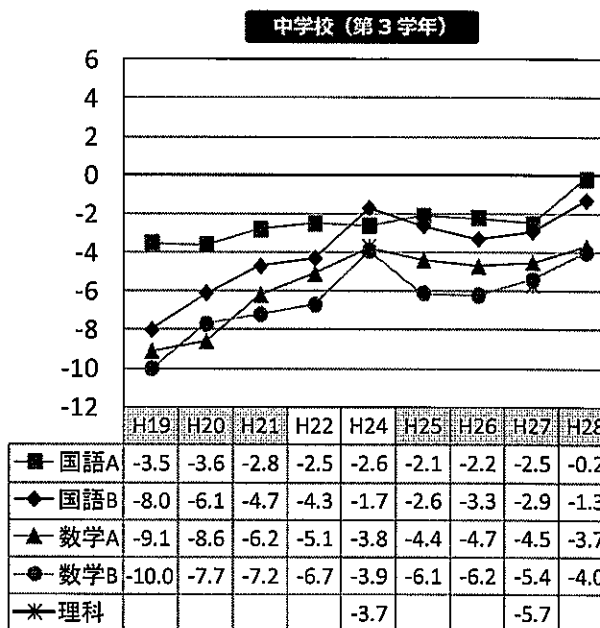
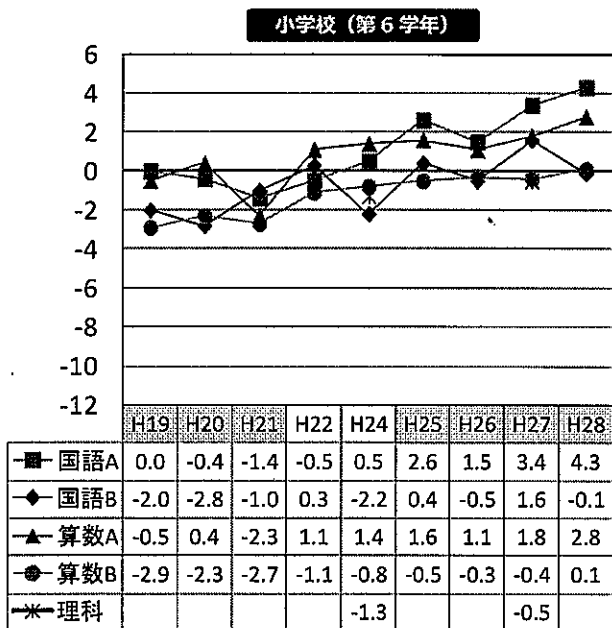
小学校の学力は全国上位を維持し、更に上位を目指す
中学校の学力は全国平均以上に引き上げる

■全国学力・学習状況調査結果 (H19～H28 年度)

◇本県と全国の平均正答率の差



◇本県と全国の平均正答率の差 (教科、問題別)



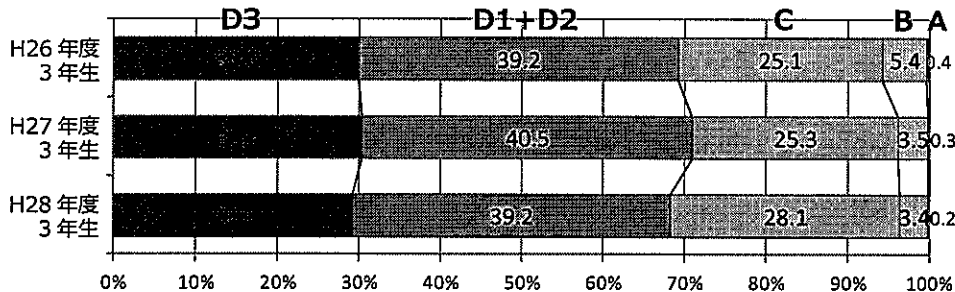
※平成 22・24 年度は抽出調査、平成 23 年度は東日本大震災の影響により全国調査は未実施

■小・中学生の学力の状況は、全国学力・学習状況調査が始まった平成 19 年度からは改善傾向にある。平成 28 年度調査結果について校種別にみると、小学校は、知識や技能を問う A 問題で、国語・算数ともに全国平均を上回っており、活用する力を問う B 問題についても、国語・算数ともに全国平均とほぼ同じ結果で、総合的にみて、昨年度に引き続き全国上位に位置している。中学校は、国語・数学ともに全国平均を下回っているが、その差は縮まってきており、ここ数年の足踏み状態から脱する兆しがみられる。



高校3年生の4月の学力定着把握検査におけるD3層の生徒の割合を15%以下に引き下げる

■ 学力定着把握検査結果（3年生4月の調査結果）



※数値は学力定着把握検査Ⅰ（30校）の結果

※その他6校で学力定着把握検査Ⅱを実施

※評価尺度である学習到達ゾーンの内容は下表のとおり

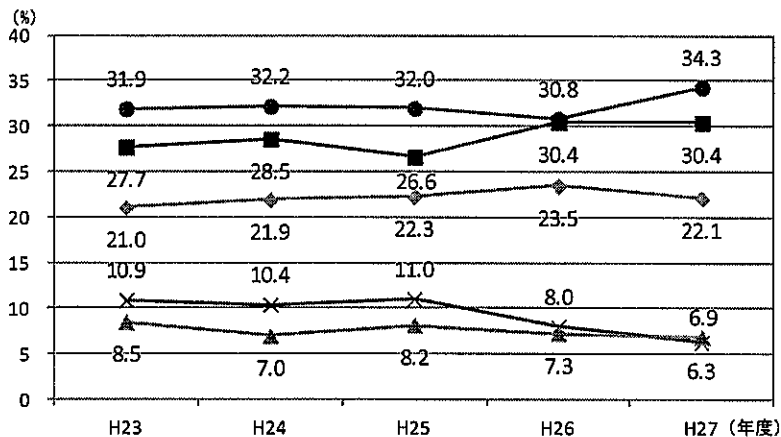
（なお、学力定着把握検査Ⅰにおける学習到達ゾーンの最高値はA2であり、A1～S1は存在しない）

学習到達ゾーン (GTZ)	進路選択肢	
	進学	就職
Sゾーン S1～S3	難関大学合格レベル(最難関大はS1)	上場企業などの大手の就職筆記試験や公務員試験に対応できるレベル
Aゾーン A1～A3	国立大合格レベル	
Bゾーン	B1 公立大学合格レベル(一般入試)	
	B2・B3 国公立大の推薦入試に合格可能で、私立大の一般入試では、選択肢が広がるレベル	
Cゾーン C1～C3	私大・短大・専門学校一般入試に対応可能なレベル	
Dゾーン	D1 上級学校に進学することはできるが、授業についていけず、苦勞する学生が多い	就職試験に必要な最低限のラインはクリアしているが、仕事をする上で支障が出ることが多い 筆記試験が課される企業では不合格になることが多い
	D2	
	D3	



高等学校卒業者のうち進路未定で卒業する生徒の割合を3%以下にする

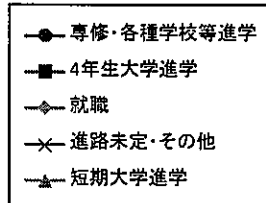
■ 公立高等学校卒業生（全日・定時・通信制）の進路状況



※就職については高知県就職対策連絡協議会調べ、進学については高知県進学協議会（H24まで）、高等学校課（H25以降）調べによる

※就職率・進学率は、公立高校卒業生全体に占める割合

※進路未定には、具体的な進学・就職先が未定の生徒、パート・アルバイト等の生徒も含む



高知県就職対策連絡協議会、高知県進学協議会、高等学校課調査

- 高校生の学力の状況について、4月の学力定着把握検査結果をみると、3年生の約70%がDゾーン、うち約30%がD3ゾーンという厳しい状況にある。
- 公立高等学校卒業者の進路の状況については、平成27年度の進路未定の割合は6.3%と前年に比べ1.7ポイント減少した。

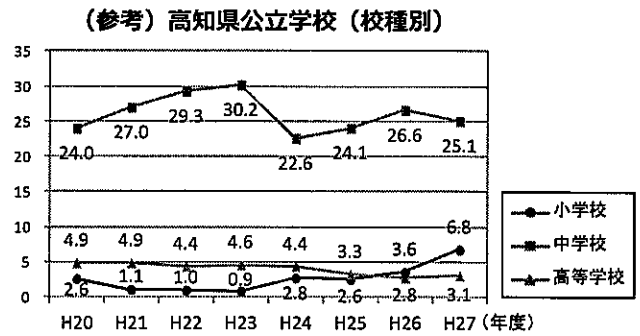
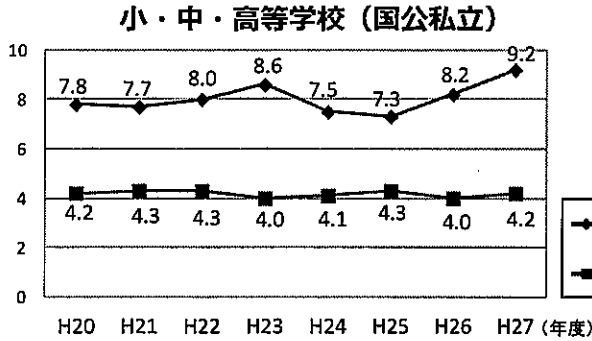
目標



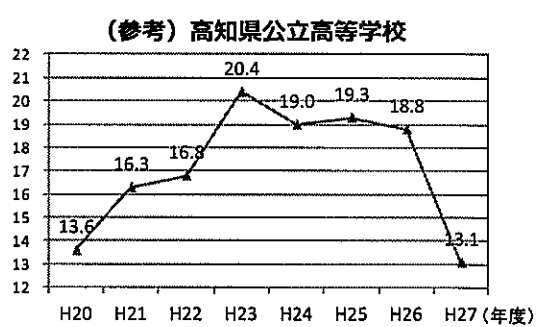
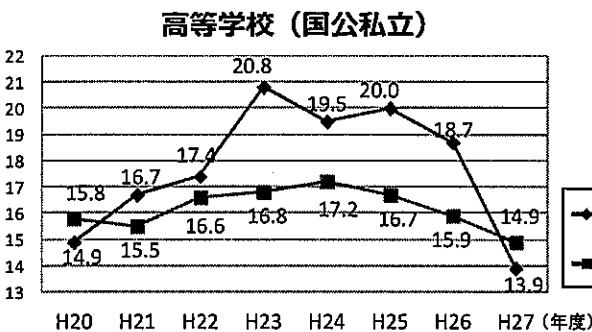
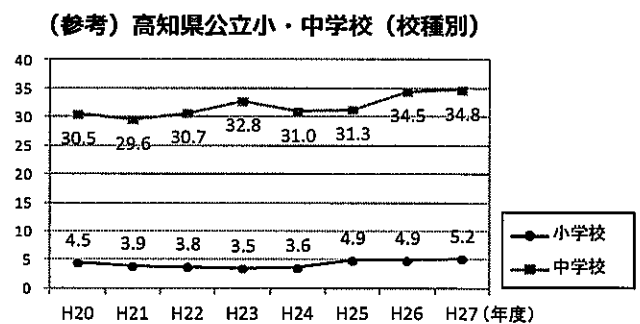
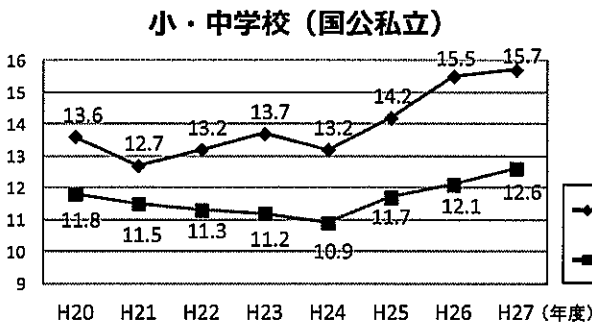
生徒指導上の諸問題（不登校、暴力行為、中途退学）の状況を全国平均まで改善する

■ 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査結果 (H20~27年度)

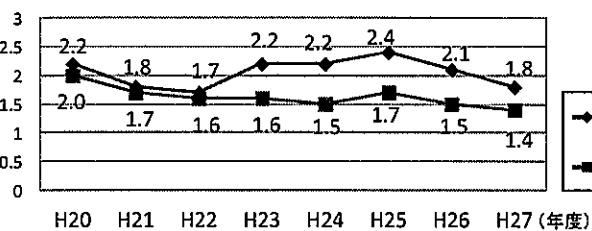
◇ 暴力行為 ※数値は1,000人あたりの発生件数



◇ 不登校 ※数値は1,000人あたりの不登校児童生徒数



◇ 中途退学



※数値は%
※通信制高校の中途退学をH25年度から追加

- 小・中・高等学校の暴力行為発生件数は増加傾向にある。特に、小学校における暴力行為の件数が大幅に増加しており、特定の学校の児童が複数回の暴力行為を行っている状況にある。
- 不登校児童生徒数は、小・中学校ではいずれも全国平均を大きく上回っているが、前年度からの継続ではなく、新規に不登校となる割合が全国より高い。高等学校では、平成23年度をピークに減少しており、平成27年度は全国平均を下回っている。
- 高校生の中途退学率は減少傾向にあり、平成27年度は1.8%となっているが、依然として全国平均より高い状況が続いている。

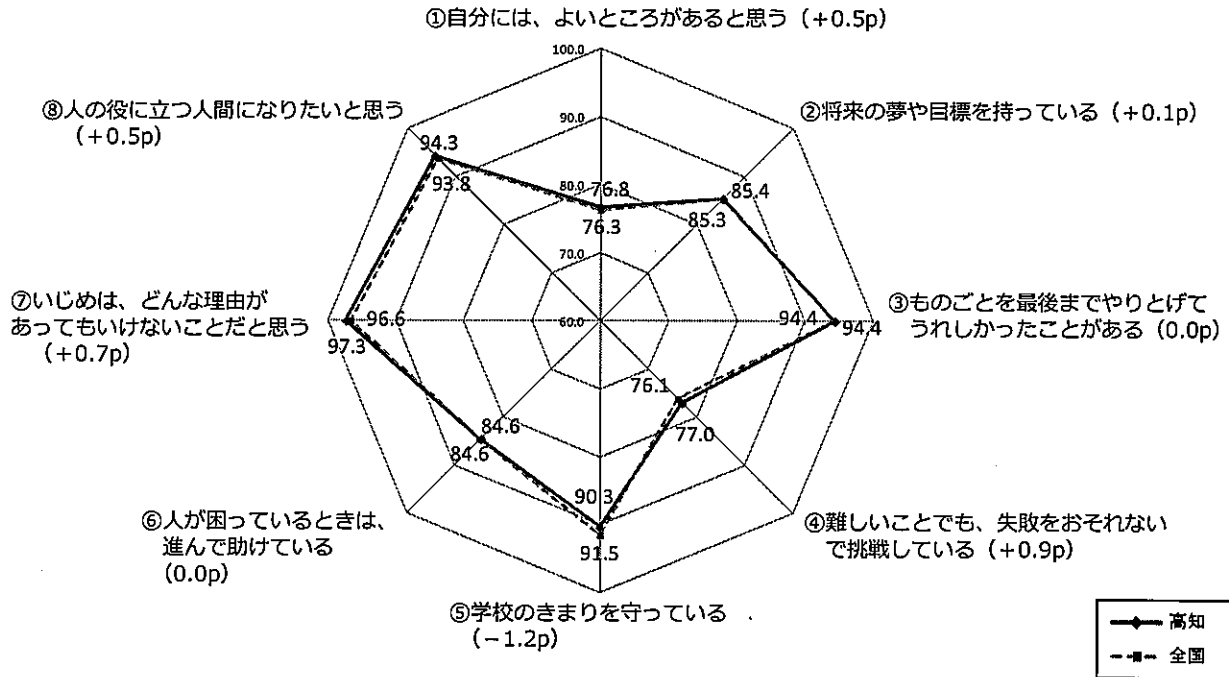


全国学力・学習状況調査における児童生徒の道徳性（自尊感情、夢や志、思いやり、規範意識、公共の精神等）意識調査結果で、全国平均を3ポイント以上上回る

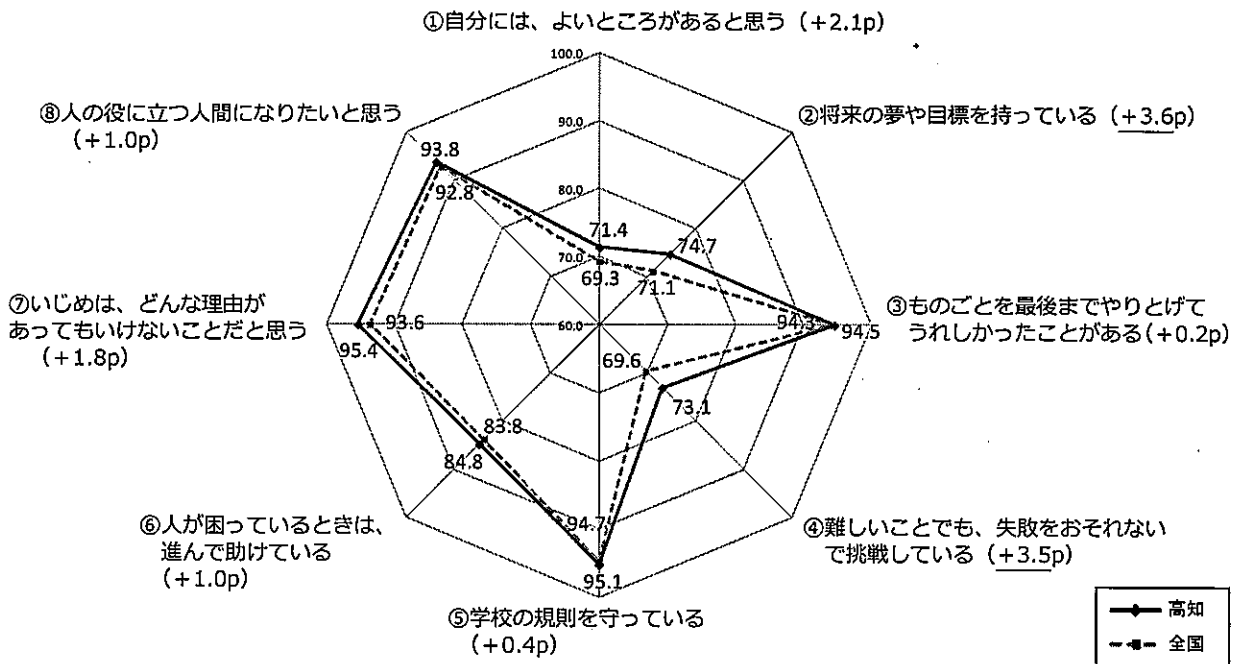
■全国学力・学習状況調査 児童・生徒質問紙調査結果抜粋（H28年度調査結果）

※各質問に対し、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童生徒の割合（%）
 ※質問項目横の（ ）内数値は全国平均との差（高知-全国）

小学校（第6学年）



中学校（第3学年）



■平成28年度の調査結果について全国と比較すると、小学校は⑤「学校のきまりを守っている」を除いて、全国平均とほぼ同じ状況となっている。中学校は、全ての項目で全国平均を上回っており、特に②「将来の夢や目標を持っている」で3.6ポイント、④「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している」で3.5ポイント上回る状況となっている。

目標



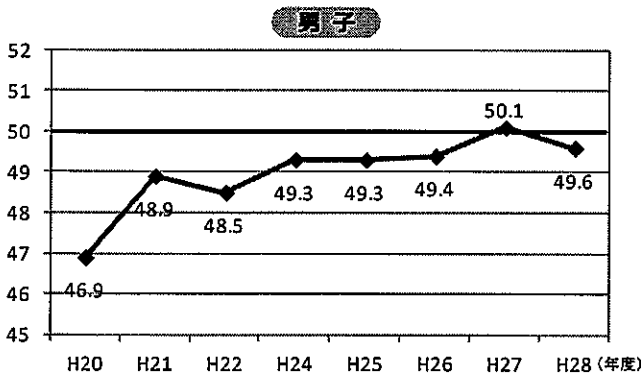
小学校の体力・運動能力は全国上位に、中学校の体力・運動能力は全国平均以上に引き上げる

■全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果 (H20~28年度)

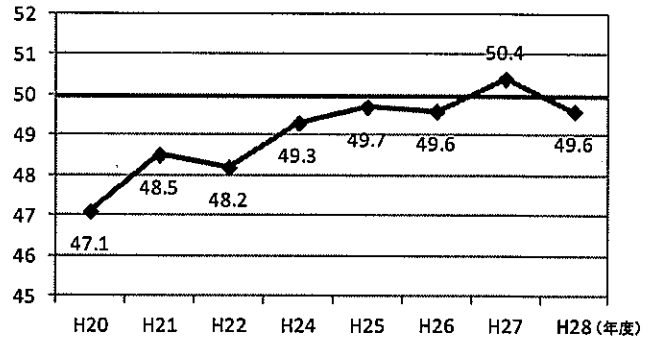
※平成23年度は東日本大震災の影響により全国調査は未実施
※数値はT得点 (全国平均=50)

◇体力合計点 (8種目の実技の総合点) の推移

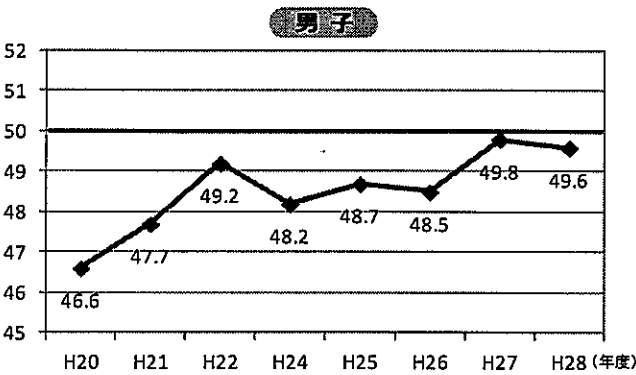
小学校 (第5学年)



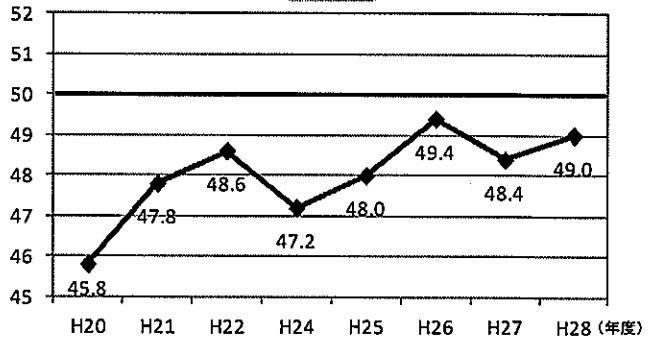
女子



中学校 (第2学年)

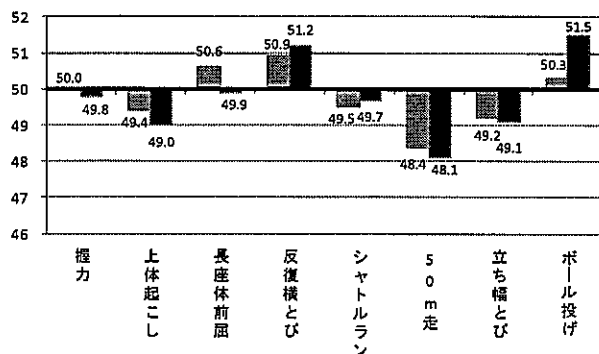


女子

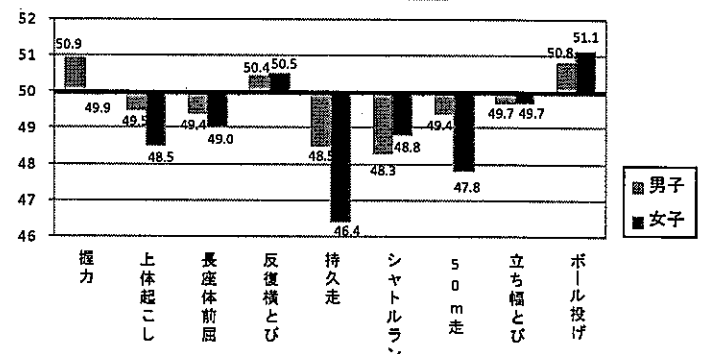


◇種目別結果 (H28年度)

小学校 (第5学年)



中学校 (第2学年)



■児童生徒の体力等の状況は、調査が始まった平成20年度は全国と比較すると低い水準にあったが、その後は着実な改善傾向を示している。平成28年度の調査結果について、小学校は、男女とも全国平均を上回った昨年度からやや後退する結果となったが、全国平均レベルの結果となっている。中学校は、男子においては、昨年度と同程度の結果で、小学校と同様にほぼ全国平均に達している。女子については、昨年度から改善が見られ、経年でみると全体的には上昇傾向にあるといえる。